

# ミサゴ渡り

平成 18 年 12 月 1 日発行

弓削野鳥の会編集発行

華やかで、コケティッシュな可愛い・・・ ルリビタキ



12月、1月、2月と真冬の木枯らし吹く季節に、やって来る、真冬の妖精のような華やかで、気品のあるルリビタキ。弓削では、上弓削の三石林道

～三山の頂上付近、久司山頂上付近でよくこの何年か、姿を観察することができました。今年は、まだ早いのか、姿はまだ見ていないが、瑠璃色、柿色のコントラストがたまらない、弓削に来る渡り鳥の中でも一番好きな野鳥である。「野鳥の中には、生まれた年の秋の羽毛の抜け換わりで雄親とほとんど同じ色になるもの、次の年の春の抜け換わりで雄の色になるもの、さらにもっと後の抜け換わりで初めて雄の羽毛の色になるものなどがあります。ルリビタキの場合は、生まれた次の次の年の秋の抜け換わりで美しい青い色になるら

しいのです。それまでは雌のような色ですが、結構よい声で囀りますし、ちゃんとつがいになって繁殖もします。秋から早春にかけて、山麓や郊外の林に移動してくるルリビタキですが、この時期にも若い雄の成鳥はとても少なく、なかなかお目にかかれませんか。」（高野伸二著「野鳥を友に」より抜粋。）

よく雌色で、瑠璃色がかったルリビタキをよく見かけます。あれが雄色になりかけのようですね。綺麗な雄色になるには3年はかかるとのことですね。3年ということは、小鳥の寿命からしてせいぜい5年の命、壮年40から50歳ということか。（写真提供：竹林清志氏）

### 幸せを運ぶコウノトリ・・・ 放鳥から1年

30 数年前に国内で絶滅してしまった野生のコウノトリ、その最後の

1羽がいたのが、兵庫県豊岡市周辺です。かつてコウノトリは人里で普通に見かける鳥でした。自由に空を飛び、田んぼや川辺で餌を探し、高



い木に巣を作っていました。けれど農薬の影響で餌が減ったり、巣を作る松の木が減ったことなどから数が減り、ついに姿を消しました。そこで、人と共に暮らしていたコウノトリの自然な姿を取り戻そうと、豊岡市では 40 年以上も前から人工飼育や繁殖に取り組み、今では 100 羽以上を飼育しています。そして、昨年 9 月、その中の



5 羽が初めて里山の自然の中に放たれました。絶滅した鳥類の野生復帰という世界的な試みです。昨年放鳥された 5 羽に続き、今年 9 月にも 2 度にわたって 7

羽が放鳥されました。園内の屋根なしケージで巣立った 2 羽のヒナと、大陸から飛来して住み着いた野生の 2 羽を含めると、現在、合計 16 羽のコウノトリが野生環境で暮らしています。放鳥されたコウノトリと人が一緒に暮らすため、コウノトリの郷公園周辺に広がる田んぼでは、減農薬、無農薬、アイガモ農法など、生き物に配慮した米づくりが行われています。コウノトリがきっかけとなって取り戻した健全な農地、またそこで収穫される安全でおいしいお米や野菜は、ここで暮らす住民にとってもうれしいことです。これもコウノトリが運んできた幸せかもしれませんね。

コウノトリってどんな鳥・・・コウノトリは国の特別天然記念物。

体長は約 1.1m、羽を広げると 2 m前後にもなる国内最大級の鳥です。

ドジョウやフナなどの小魚やカエル、ミミズなどを食べます。ヒナは鳴きますが、大人になると鳴けなくなり、くちばしでカスタネットのような「カタカタ・・・」という音を出すクラッタリングという方法で威嚇や求愛を表現します。

コウノトリの暮らしは・・・里山では田んぼや水辺で餌を探し、大きな松の木の上などに直径 2 mほどもある大きな巣を作ります。巣の材料は木の枝や落ち葉で、4～5 個の卵を産みます。30 日あまりでヒナが生まれ、2 ヶ月後に巣立つまで、両親が交代で子育てをします。

花札に登場？・・・松に鶴という絵が花札にありますが、鶴は木には止まりません。高い松の木にいるコウノトリを鶴と誤解したようです。(※JR西日本パンフ「コウノトリの郷」より抜粋)

シーズンオフの過ごし方・・・ 平山和昭

「暑い暑いと言いながら」7月・8月は鳥見に出かけても徒労感のほうが多い。時季だけの問題ではなく時間帯の問題でもあろう。さりとて団体で鳥見に出かけようとすれば集合時間はどうしても遅くなる。夏の時季はせめて6時7時台に現場にいれば、またそれなり

の出会いもあるとは思う。現行の通年9時集合は事情が許せば検討課題かもしれない。涼しい木陰でのんびりお茶でもしながら鳥見、あるいは声聴きをすればどんなにすてきだろう。とはおもうがあく

までも想像、希望の世界。ひとつにはなかなか何時間もいて飽きない環境がないこと。もうひとつはお鳥様のご都合。例えば佐島の池



のカイツブリのヒナをゆっくり楽しもうにも観察場所は道路際。はっきりなしに車が通る。木陰も無い。鳥もある程度日が高くなればさっさとしげみにしけこんでしまう。海岸も近頃は渚がうんと遠のいたり消滅したりでバーダーのゆっくり楽しめる場所は無い。ともかく暑いと言うことは気力を萎えさせる。鳥見と吟行、スケッチ、植物採集などを組み合わせて楽しむのも一方法だろう。ふだん島内を走りまわって、適当な候補地を3つほどみつけておけばとりあえず夏はしのげる。9月になればまた山は往来する鳥達でにぎやかになるだろうから。ばたばたしているうちにもう9月の声を聞くようになった。(カイツブリのイラスト提供：岡村美恵子氏)

## ボルネオ島の青い稲妻(part1)・・・松本敏和

コタキナバル空港に着くと数年前に訪れたインドネシア領ビンタン島のようなムツとくるような熱気と湿度は感じられず日本の真夏よりも幾分過ごしやすいかなという印象を持った。しかし、空高くわき上がる雲を見ると、今回の旅もまた雨にたたられそうな不安な気持ちになる。そんな気持ちを一掃するように南国特有の真っ赤な夕日が南シナ海に沈む。ボルネオ島は、マライ諸島の中央にある世



界で 3 番目に大きな島で北西部のマレーシア領のサバ州・サラワク州及びブルネイ王国と残りの約 4 分の 3 はインドネシア領のカリマ

ンタンとなる。ボルネオ島はインドネシアではカリマンタン島と呼ばれこの名もよく知られている。赤道直下にある高温多湿の熱帯性気候で大半は熱帯雨林に覆われている。密林や湿地が開発の妨げとなり手付かずの自然が多く残され、多種類の熱帯性動植物が生息する。資源は豊富で石油をはじめスズ、ラワン材、香料、ゴム、砂糖、漆、胡椒などを産出し、中でもブルネイ王国は世界でも有数の産油

国でたいへん裕福な国として知られている。しかし、周囲のマレーシア領、インドネシア領は開発が遅れて貧しく町から少し離れた集落には自給自足の生活を送る人々も少なからず存在する。

コタキナバルは、サバ州の州都で人口の大半はマライ人と中国人で他に原住民のダヤク族やインド人などが居住する。マライ人のほとんどがイスラム教徒で町のあちこちにモスクが点在する。ダヤク族

は首狩族として知られ、密林の奥深くには今でも首狩りの風習が残るといわれている。マレーシアの通貨単位は、マレーシア・リンギット (RM)、補助



通貨はマレーシア・セン (SEN) で  $1 \text{ RM} = 100 \text{ SEN}$  となり、日本円との換算レートは  $3 \text{ RM} = \text{約 } 100 \text{ 円}$  である。前置きはこれぐらいにしておき、マレーシアで最初の食事となるマレー風バーベキューとマレー風鍋のお話からはじめることにしよう。直径 20 cm の鉄鍋の周囲に帽子の縁のような鉄板が付いていて鍋とバーベキューが一度に楽しめる仕組みとなっている。バイキング方式で肉、カニ、エビ、野菜などを好きなだけ焼いたり鍋で煮たりして食べる訳だが、肉は赤黒くととても牛や豚とは思えないような色をしたうえ、茶色い

タレに浸してあるが、このタレが香辛料たっぷりです。サロンプラスを思わせる臭いを発して味も癖が強く、これではとても日本人観光客は呼べそうもないと思った。マレー風鍋は、カニとエビで出汁を取り、肉はほとんど入れずに野菜を多めに入れたので美味とはいかないまでも何とか長旅の空腹を満たしてくれた。この後の食事はこの香辛料と香草とに苦悩させられることとなる。食後、ナイトマーケットを散策、20m四角ぐらいの広場に所狭しと屋台が並び、日用雑貨を中心に何でも揃う。偽ブランドの財布やバッグが10RM程度の値段で隠されることもなく堂々と並んでいる。ブランドの腕時計で



も80RM程度の値段でしかも値切れは必ず半値近くになるのには驚いた。当然、本物のブランド品を売る店など市内のどこを探してもあろうはず

がない。多くの弓削の女性が数百円のバッグとも知らずよそよそしく提げて歩く姿をどんな目で見ればよいものか？ホテルの窓から見上げる夜空が稲妻に赤く染まり1日目が終わる。(to be continued)

【※写真提供：ノゴマ・松本敏和氏、アオサギ・ミサゴ・竹林清志氏】

## 弓削野鳥の会からのお知らせ（事務局より）

昨年から計画していました弓削野鳥の会のスタッフジャンパーができました。何人かの会員の方にはお渡ししていますが、他の会員



の方、また会員以外の方でもかまいません。希望の方はご連絡下さい。胸、肩、背中にイラスト、ロゴが入りっています。料金は少し高いですが1着・5,500円（会員価格）、会員以

外1着・6,500円です。事務局までお申し込みください。

ミサゴ便りへの原稿を募集しています。岡村さんのようなイラストとか、写真・詩・俳句・短歌等なんでもかまいませんので、お気軽にお寄せ下さい。イ



ラスト提供は岡村美恵子さんです。ジョウビタキの羽の色合いといい、バンのツガイのくちばしの色合いがよく出ていてとてもよく観察されています。これぐらいフィールドノートを使うと値打ちがありますね。（今月の定例探鳥会は12月10日ですよ。）